

強者の戦略

【まずは基本的な知識をしっかりつけてからの論述対策ですよ】

みなさんこんにちは、世界史の北林です。研伸館をはじめ、さまざまな塾・予備校で夏期講習の声がきこえはじめてきました。みなさんはどういった「夏」をすごすイメージをいただいているのでしょうか。「夏は受験の天王山」なんてベタなことがよくいわれますが、たしかにその通りで、夏にがんばった成果が、1ヶ月・2ヶ月先にあらわれてきます。

でも、さあ夏からはじめよう、と思っただけ基礎を積み上げても少し遅いですね。今から夏までに何ができるかということもしっかり考えて、長期で戦略を練ってかかっているといけません。

さて、昨年このホームページで世界史は、東大・京大・一橋などの論述問題をお見せしてきました。

今年の東京大学の第一問の大論述はご覧になりましたか？オランダ史でした。しかも、「…(略)…このようなオランダおよびオランダ系の人びとの世界史における役割について、中世末から、国家をこえた統合の進みつつある現在までの展望のなかで、論述しなさい」という、オランダが果たした“役割”を問う問題でした。なかなか答えにくかったのではないかと思います。いろんな予備校が解答例を出していますが、ちょっとずれた解答を書いているところもありますし、なかなか受験生には難しかったかも。

でもオランダ史は論述では必須の範囲で、東大の問題は難しかったにしても、オランダがどういった拡大を見せたか、などは最低限知っておかないといけない知識です。でもいきなりこの時期に東大の問題はきびしいでしょうから、今回はストレートに知識を問う問題として、2004年筑波大学の問題に一度チャレンジしてもらいましょう。世界地図を頭に思い浮かべて、チャレンジしてください。

問題

16世紀から17世紀にかけて世界の商業的覇権を握ったのはオランダだった。オランダの興隆と衰退を以下の語句を用いて、400字以内で説明しなさい。

バタヴィア

新教徒

ユトレヒト同盟

ニュー・アムステルダム

中継貿易